



2013-2014受入青少年交換学生帰国挨拶  
および制度充実にたいする要望のための  
長野県教育長訪問 報告

表記の件、平成24年6月15日（月曜日）長野県庁において、2013-2014受入青少年交換学生帰国挨拶および、受入制度の充実にたいする要望のために長野県教育長を訪問しましたので報告します。

内容については別紙参照ください。

期日：平成26年6月16日

団体名：国際ロータリー2600地区 青少年交換委員会

出席者：

2014-2015 ロータリー2600地区

ガバナー

中川博司（伊那リサーチ会長）

同上 青少年交換委員長

若林俊樹（上山田ホテル常務）

同上 受入交換学生

タバア、カタリナ、サラ、プレイバ、タマラ 5名

紹介者： 荒井武志県議会議員（ご同席）





## 2013-2014 ロータリークラブ交換留学生 教育長への帰国ご挨拶およびお願い

期日：平成26年6月16日

団体名：国際ロータリー2600地区 青少年交換委員会

出席者：

2014-2015 ロータリー2600地区

ガバナー

中川博司 (伊那リサーチ会長)

同上 青少年交換委員長

若林俊樹 (上山田ホテル常務)

同上 受入交換学生

5名 (別紙)

紹介者： 荒井武志県議会議員 (ご同席)

### ○ロータリークラブと青少年交換事業の説明

ロータリークラブは地域に根ざした会員により、人道援助や社会貢献、地域社会や青少年に対する奉仕活動をおこなう、多様性や高潔性を重視する奉仕親睦団体です。長野県下各市町村に55クラブ約2000人の会員を有し、その統括をしているのが2600地区という単位です。

世界中の200以上の国や地域にわたる33000のロータリークラブが統一して行っているのが、各国の高校生同士を交換して複数のホストファミリー宅にホームステイしながら約一年間高校に通学し、相互の国際理解を深め、平和に貢献するという青少年交換プログラムです。

本年度県内においては別紙のように、4名の長期交換学生を派遣中、5名を受入中で、同時に7名の派遣候補生を一年に渡り教育訓練をおこなっています。8月19日より7名の学生を受入ます。

運営はボランティアで実施され、本人の必要な経費は往復運賃、保険、訓練、ビザ取得にかかる経費およびオプションの旅行費用だけで、全て含めても個人負担が60万円を超えることはありません。学校にかかる経費は全てロータリークラブが負担します。

本人には月一万円の小遣い、ホストファミリーには食費補助として一日千円をクラブから支給していますが、ホストファミリーには大変な負担をお願いしているのも事実です。

受入各ロータリークラブと2600地区では、あわせて受入学生一人あたり130万円程度の支出をおこないながら、学校生活の経費負担や国内県内各地への旅行開催、月一回のミーティングや日常的生活相談活動等で、安全安心に生活できるよう交換学生を支えています。

### ○2013-2014受け入れ交換学生 帰国のご挨拶

ロータリーの交換制度を用いて来日した5名の交換学生は、昨年8月に来日以来10ヶ月、長野県内の公立高校を中心とした各高校にお世話になってまいりましたが、早いものは6月20日、遅くて7月26日には帰国することになりました。本人たちの努力、クラスメイトや先生の暖かい協力、そしてホストファミリーとの日常生活により、各受入交換学生の日本語や日本文化の理解は飛躍的に高まりました。

異文化をもつ、同世代の日本の高校生と学校生活をともにした事は双方にとって忘れられないこととなるでしょう。同世代の生の外国人、生の外国語に日常的に触れる機会は日本の学生にと



とても貴重な体験であったと思われま。また、ボランティアでホームステイを受入てくださった多くの家庭にとっても、お互いの異文化がふれあう体験は、大きな影響を及ぼし、このような機会が真の友好平和にももの確信できたと感じます。

学びの場の提供、授業料の無料措置をはじめ、さらにはホームステイ先の紹介等、このような機会を与えていただいた長野県教育関係者、学校関係者に感謝の意を表するものです。

○留学生受入の促進についてのお願い。

東京オリンピックが決まり、さらに観光インバウンドの推進や、経済の国際化の波をうけて、文部科学省留学生30万人計画の方針のもと、さらにこのような国際友好事業が推進できますよう、以下の様な取り組みをさらにご推進いただきますように要望とさせていただきます。

- 1) 各高校において交換学生の受入に積極的な体制をさらに推進していただく。
- 2) 他県や県内一部市での実施例があるようなホストファミリーの滞在費補助制度を国縣市町村で協力しながら県内全域で早期に実現するようご検討いただく。

特にホストファミリー補助制度については、制度を充実していただけることで、更に多くの学生を受け入れることが可能となり、また、ホストファミリーの負担も減ることで、引受手の減少が問題となっているホストファミリー引き受け手の増加を図ることができます。

これについては、他の留学生受入機関からの要請もあるようにお聞きしております。

ご検討をよろしく申し上げます。